

引佐幼稚園 農業体験のあらまし

引佐支部若手部会会長 野沢正敏

今から13年前、認定協引佐支部若手部会の役員の子供が引佐幼稚園に通っていた。自らの子供が幼稚園のイベントをこなす中、農業系のイベントがない事に気づいた。そこで稲作の農作業体験を通じて、「食べ物を作る大変さや食べる事のありがたみを知って欲しかったし、農業に興味をもったり、農業をやってみたい子が出てくれたらいいな」という思いを込めて農業体験を引佐幼稚園に提案したところ、快諾を頂いて現在に至っている。

年間スケジュール

- 5月下旬 田植え体験、泥遊び
- 9月下旬 お米収穫体験
- 10月中旬 収穫祭
- 10月中旬 みかん狩り
- 1月中旬 餅つき体験

この様なイベントを通じて個人的に感じた事を述べる。

筆者（野沢正敏）は、子供たちは大人と遊んでと考えている。

それは、私が幼少の頃、仕事に忙しかった両親に遊んでもらえず寂しい思いをしていた事に由来する。

現代の親は、様々な理由で子供と遊ぶ時間を確保する事が難しいのでは無いかと考えている。その結果、子供たちは、幼少期の私と同じ思いを抱いているのではないかと考える。

この様な事から、イベント時は積極的に子供たちとコミュニケーションを取る事を心がけている。

例えば5月の田植え体験、泥遊びでは、若手部会会員が田んぼの中で子供たちを乗せたソリを自ら引っ張っている。幼稚園の先生に話を聞くと「主催者が自ら田んぼに入って、自ら子供たちと遊んでくれるとか、こんなに一生懸命やってくれるイベントは初めて見た」と褒めて頂くこともしばしばある。

農業体験は、非日常的な空間を提供している。参加した子供も親も先生も若手部会会員も、参加した全ての人々が楽しく温かく幸せな時間を共有出来るのである。この様な体験が、子供たちの成長や家族の団欒に対して一抹のお役に立てば私達も嬉しく思う。